



『小学校外国語活動（英語）で何を身に付けるの？』

校長 岡部 良美

平成32年（2020年）度から小学校では、3，4年が週1時間の外国語活動、5，6年は週2時間の英語の学習が始まります。大泉東小学校では今年度から3年早く試行実施をしています。さらに、さくら学級，1，2年も13年後に予想される日本の教育の改訂を見通して、週1回15分間の外国語活動を実施しています。今回は、保護者や地域の方にご理解いただくために、Q&A方式でお伝えします。土曜授業でご覧になる際の参考にしていただければ幸いです。

Q1 なぜ、外国語活動（英語）の学習が必要なのですか？

A1 子供たちが社会で活躍する2030年は、グローバル化が進み、外国の人とのかかわる、海外で活躍する機会が多くなることが予想されます。日本においても世界においても国際的なコミュニケーションの場では、外国語、特に英語を用いてコミュニケーションをすることが求められるからです。

Q2 外国語活動（英語）で何を学ぶのですか？

A2 外国語（英語を）通してコミュニケーション力を養います。英語そのものを学習することをねらいとしていません。

Q3 コミュニケーション力とは、どのようなものですか？

A3 「Communication」の語源はラテン語に由来し、「分かち合うこと」という意味です。国際およびグローバル社会で求められるコミュニケーション力とは、①「共生の心（人権尊重）、思いやり、積極性」、②「何事も自分で考え、判断し、表現・行動する主体性」および「自己決定力」、③英語によるコミュニケーションで求められる「論理的能力」です。

Q4 小学校で育みたいコミュニケーション力とは、どのようなものですか？

A4 3，4年は「簡単が語句や表現を使って、自分のことや身の周りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力です。

5，6年は「なじみのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力です。

Q5 小学校でコミュニケーション力を育む上で大切にすることは何ですか？

A5 「通じる」ことを第一義としており、発音の良し悪しではありません。そして英語によるコミュニケーションを主体的に楽しむことです。ネイティブな発音はALTや英語サポーターの方の発音から子供たちはまねていきます。

『What color is this? It's green.』など子供たち同士のコミュニケーション、『バナナじゃなくて banana, パインじゃなくて pineapple, カレーじゃなくて curry, …』のチャンツ（リズムに乗せて言う活動）、絵本『Brown bear, Brown bear, what do you see?』の読み聞かせなど、「楽しい、できる」いろいろな活動を行っています。

○【校舎等全面改築工事の情報】

新体育館は外壁の工事に入りました。新南校舎（教室棟）の土台基礎工事が旧正門付近まで進んでいます。

○【主な給食使用食材の産地についてのお知らせ 6月】

お米（青森県産 まっしぐら）牛乳（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、千葉）大根（千葉、練馬）小松菜（練馬、埼玉）玉ねぎ（練馬、群馬）にんじん（千葉、徳島）きゅうり（練馬、埼玉）キャベツ（練馬）にんにく（練馬）アスパラガス（栃木）豚肉（青森）鶏肉（岩手）鮭（北海道）